大間アゲ魚っ子の取組みを、下北半島全域に!

佐井も風間浦も東通もむつも、みんなでアゲまぐるどー！

野﨑 尚文 大間町長と産業振興課の伊藤美汀さん、そして、アゲごんべ

山本 知也 むつ市長

畑中 稔朗 東通村長

冨岡 宏 風間浦村長

太田 直樹 佐井村長

マグロの大間が白身魚に着目。多様な魚を地産地消でおいしく食べるムーブメントを子どもたちと楽しく起こして、「海の豊かさを守ろう」という心を育む「大間アゲ魚っ子」キャンペーン。「日本財団 海と日本プロジェクト」の一環で行っています。2021年度にスタートしてから3年目となる今年が事業最終年。大間発のこれまでの取組みとムーブメントを下北半島全体に拡散し、飲食店さんなどとの連携や小学校を中心とした「海の食育」活動が、しっかりと地域に根づいていくことを目ざして、今年度もアゲてアゲてアゲまくります！

首長アゲアゲ表敬キャラバンで、津軽海峡に面した5市町村が、ガッチリ連携！

2021年度、大間から始まったアゲ魚っ子キャンペーン。3年目となる今年度は、これまでの取組みを下北半島全域へと広げるため「首長アゲアゲ表敬キャラバン」を行いました。連携の呼びかけに賛同いただけた場合、最後にその証として首長と一緒に「海の未来を〝アゲアゲ〟ポーズ」を撮影するというものです。5月29日、佐井村の太田直樹村長を皮切りに、風間浦村の冨岡宏村長、大間町の野﨑尚文町長、東通村の畑中稔朗村長を訪問。そしてフィナーレの6月28日、アゲごんべが山本知也むつ市長を訪問し、5つの自治体の首長全員がこの取り組みへの理解と連携を示し、最高のアゲアゲポーズを披露してくれました。海に囲まれた下北半島が一体となって、海の未来へ！みんなでアゲアゲ！

海を知って、さばいて食べて遊んで歌った。君たちはもう立派な海の子エリートだ！

大間ならではの海のフィールドを生かして、子どもたちへ海の体験の機会を提供する「津軽海峡 海の子アカデミー」。海に親しみ、津軽海峡の多様性を学び、海の豊かさを守っていこうとする心を育むため、2022年は8月4日と5日に実施し、大間小の5、6年生8名が参加してくれました。

1日目は漁場体験と磯体験。泉徳隆さんの漁船に乗せてもらって、漁師さんの目線で海を知り、津軽海峡は多種多様な魚の宝庫であることを学びました。続く大間崎での磯体験では、箱メガネですぐ足元に泳ぐ海の生物を観察し捕まえて、自分だけのミニ水族館づくり。2日目は、釣り船の荒谷潤治さんや奥戸漁業女性部の新井田若子さんらにていねいに教えてもらいながら、ロウソクホッケを1人1匹ずつさばいてカツにして、特製ホッケカツカレーに。最後はこの2日間の気づきや想いをまとめて、おさかな専門シンガーソングライターの齊藤いゆさんと歌作り。すっかり「海の子」になった8人に、修了証書が手渡されました。

今年はさらに船釣りの体験も加え、8月1日～2日に1泊2日で開催します。8月5日には函館遠征にも行くぐどー！

2022年 アゲ魚っ子キャンペーン

飲食店など30店、マエダストア全36店と連携しました！

津軽海峡海の子アカデミー参加募集中

小学校5・6年生対象 8月1日～2日開催（参加料無料）

海を知って、海で釣って、海を食らって、海と遊んで、海を歌って、海が大大大好きな海の子になーれー！2回目となる今年は、1泊2日のプログラム。仲間どうしの交流も深めて、「海の子」の輪を広げていきます。おまけの函館遠征交流もありますよー！

申込締切：2023年7月20日

詳細お申込は☞

☞「アゲ魚っ子のテーマ」はこちらから

大間の小学生が「海の子アカデミー」に参加して、海と友達になった2日間を歌にした！おさかな専門シンガーソングライターの齊藤いゆさんと、海の子スターズの初コラボ。さあ、動画に合わせて、でっかい声で歌うど～

UP! UP! TIMES

NEWS

アゲアゲ新聞

おうちの ひとと いっしょによもう

【第2号】 2023.7月号

発行：一般社団法人 海と大間の未来つくり隊
事務局：〒039-4601
青森県下北郡大間町大間字蛇浦道11-7Y
プロジェクト㈱内 電話 0175-37-5073

※(一社)海と大間の未来つくり隊の活動は、「日本財団 海と日本プロジェクト」の一環で行っています。